

東南村山から際立つ美味しさを！ おいしい米づくり情報

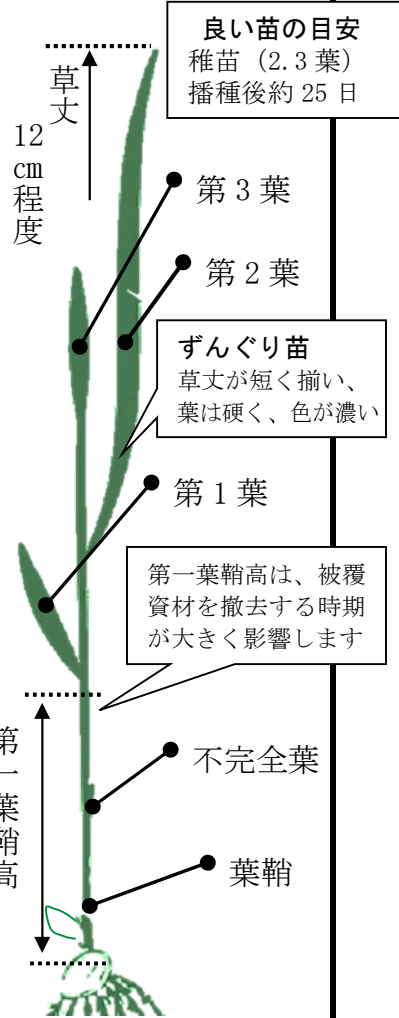
第3号 育苗後期編

発行:令和 3年 4月 26日
山形おいしさ際立つ!米づくりプロジェクト村山地域本部
村山総合支庁農業技術普及課
(TEL:023-621-8295)

天候に応じた細やかな温度管理で、健苗に育てましょう。

～育苗期の温度管理～

時期	昼間	夜間	管理点
出芽期	30～32℃		低温条件は苗立枯病(カビ)の発生を助長します。被覆は保温資材を使用して、出芽を少しでも早めましょう。
1.5葉期まで	25℃	10℃	出芽から緑化する際の急激な温度の低下は、白化苗の発生を助長します。
1.5葉期以降	15～20℃	5℃以上	育苗ハウスは朝イチに開放します。低温時は保温しながら、苗を外気温に慣らします。移植1週間前からは、夜間もハウスを開放しましょう。



健苗モデル(原寸大)
稚苗:2.5葉、移植時

- ・アルミ蒸着シートの利用でも、育苗箱土壤の温度をこまめに確認しましょう。
- ・覆土から5～10mm出芽したら、被覆資材を撤去します。出芽揃い後も長期間被覆を続けると、苗の軟弱徒長に繋がります。
- ・灌水は早朝に1回行います。夕方、葉先に水滴が付く状態が適切な水分環境です。夕方の灌水は、床土温度を下げるので厳禁です。
- ・プール育苗は稲1.5葉期に床土の高さに入水します。稲2.0葉期以降の水深は、箱上1cmが目安です。
- ・4月下旬以降の播種では、外気温が高まるため、苗の生育速度は早まります。こまめな換気で、苗の老化を防ぎましょう。


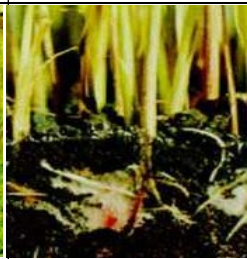



～育苗期間の肥培管理～

苗の種類	育苗期間	追肥時期	追肥量の目安
稚苗 (移植:2.5葉)	20～25日	1.8葉期	窒素成分1g/箱を目安に施用します。 窒素成分10%の液肥では、原液を100倍希釈して、500ml/箱程度を施用しましょう。
中苗 (移植:3.5葉)	30～35日	1回目:2.0葉期	
		2回目:3.0葉期	

※ 育苗培土に肥効調節型肥料(育苗一発肥料)を混和した場合は重複追肥をしないこと

～育苗期間の病害～

育苗期間中の糸状菌による病害を総称して苗立枯病と呼称します。原因菌種によって対応策や効果的な薬剤が異なります。**おかしいな、と思ったら**まずは御相談ください(023-621-8295)。

病害等 (菌名)	ムレ苗 (ピシウム)	苗立枯病 (フザリウム)	苗立枯病 (リゾプス)	苗立枯病 (トリコデルマ)	籾枯細菌病 (細菌)
病徴 (写真)					
症状	稲 2～3 葉期の萎凋症状	白～淡紅色カビ(籾周辺)	覆土を覆う白色カビ(出芽緑化期)	白色～青緑色カビ(床土や籾周辺)	坪状～条状の萎凋症状
多発条件	出芽～緑化期の低温		高温・多湿(出芽時 33℃以上) 過湿・窒素過多	水分不足	高温多湿(出芽後) 高 pH 床土

一部の写真はルーラル電子図書館から引用

- ・育苗施設内の環境は高温・多湿であり、苗立枯病等が発生しやすい環境条件です。適正な水管理や温度管理が行われないことで発病が促進されるため、育苗管理を再確認しましょう。
- ・**無加温出芽**では播種から苗立ちまで時間を要するため、**天候不順(低温)が発病を助長**します。出芽が速やかに進むよう、日中と夜間の温度管理(目安: 30～32℃)を細やかに行いましょう。
- ・**高温条件は、苗のヤケや病気(籾枯細菌病やばか苗病)の発生を助長**します。また、苗が徒長すると充実度が低下するため、育苗ハウスの空気を入れ替えて育苗温度を管理しましょう。

※ばか苗病対策は、号外(R3. 3. 10 発行、病虫害防除編)を参照

～苗質は移植後の生育に影響します～

- ・苗質を高めて、移植後の早期活着と初期生育を確保しましょう。
- ・箱当たりの播種量が多い場合は、特に苗質の低下に注意しましょう。育苗日数や温度管理を再度確認してください。
- ・**つや姫は坪 70 株で 1 株 4～5 本 (m² 当たり 100 本) を植えて初期生育を安定させましょう。**

つや姫の指標値 (6/10) : 220 本/m²

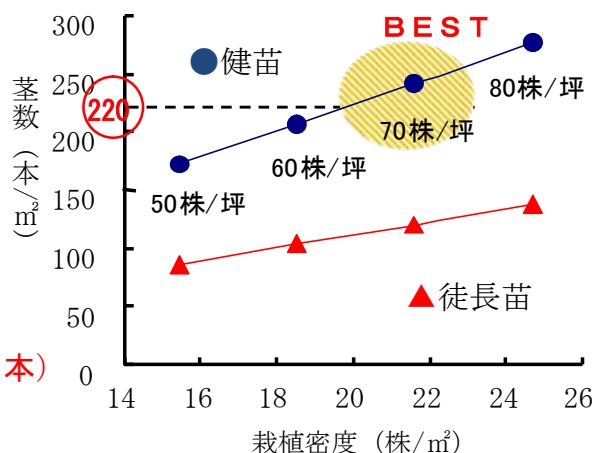


図. 6月10日の茎数と栽植密度の関係

春季農作業事故防止啓発運動 展開中 4月10日～6月10日

あせらず、きもめず STOP 農作業事故!